

# 千葉情報ふさ房総

千葉聴覚障害者センター

発行責任者：植野圭哉  
 〒260-0022 千葉県千葉市中央区神明町 204-12 TEL:043-308-6372 FAX:043-308-5562  
 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会 メールアドレス:chibadeaf@deaf.or.jp ウェブサイト:http://www.chibadeaf.or.jp/

# いま、<sup>き</sup>訊ける！ 今、伝えられる！！

平成29年9月 **30**号

## 電話のバリアを越える挑戦

◆日本財団電話リレーサービス・モデルプロジェクト 7月5日 開始しました◆

**当センター  
 事務所内  
 ブース** ➡

9時～21時、土日・祝日9時～18時  
 筆記者)のブースです、運用時間は平日  
 手前が手話(千葉県登録手話通訳者)の  
 ブース、奥が文字(千葉県登録PC要約



聴こえない人が、オペレーターを介して手話やチャットで即時双方向に自分で電話がかけられる電話リレーサービスは、海外ではインターネットの発達とともに20カ国以上で公的サービスとして実施されています。日本ではまだ公的サービスには至っていませんが、東日本大震災を機に日本財団電話リレーサービス・モデル事業が開始され、今年度から日本財団と厚労省のモデル事業となり、当センターが加わることとなりました。

### ◆事業立ち上げ 研修◆

5月末に日本財団電話リレーサービス・モデル事業への参加が決定し、事業立ち上げに向けて研修を開始しました。まず職員がシステムを習得、オペレーター候補を募り全体説明会、そして個別研修(右写真)を連日行いながら新事業の電話リレー通訳ならではの課題の洗い出しとガイドラインに沿っているかなどの作業を行いました。本運用後も研鑽の日々です。



個別研修：左)利用者画面 右)オペレーター画面 同時に投影しながら、説明しています。

# 情報通信技術（ICT）の発展と意思疎通支援サービス

近年の情報通信技術（ICT）技術のめざましい技術革新により、聴覚障害者の意思疎通支援の幅も広がりを見せています。かつてのFAX機器の普及に始まり、携帯電話、スマホなど、技術革新は一気に進み、高速通信回線の環境が整い、タブレットやスマートフォンの端末を利用した映像による意思疎通支援ツールは拡大しました。

## ◆電話リレーサービスや遠隔手話通訳サービスなども実用化の段階に◆

リアルタイムに意思疎通ができる電話リレーサービスや遠隔手話通訳サービスなども実用化の段階に入り、当センターも電話リレーサービス事業の開始実施から2か月が経過しました。予約・解約手続きから、各種問い合わせ、情報収集、苦情など実に様々な内容の案件があります。

全国どこからでも、リアルタイムに意思疎通が可能となった電話リレーサービスの利便性は画期的なものであり、聴覚障害者の意思疎通支援の選択肢が広がったことは朗報です。

### 【電話リレーサービス：利用例】

電話をしなくても周りに依頼するのを遠慮していました。リレーサービスを使うと自分で電話ができるので助かる。

- ・再宅記の依頼
- ・出前の注文
- ・病院の予約
- ・宿泊予約 など

すぐに返事が聞けて便利です。

仕事でお客様に急いで連絡しないといけない時、頼める人がいなくても電話ができます。

## ◆情報通信技術（ICT）が聴覚障害者の暮らしや権利を損なうものとならないために◆

しかし一方で情報通信技術（ICT）の便利さが、聴覚障害者の暮らしや権利を損なうものにならぬよう注視する必要があります。聴覚障害者にとっての利便性、安全性、通信倫理、通訳内容の範囲等ITの果たす役割を検証し、本来の手話通訳制度の仕組みづくりにつなげるプロセスが必要となります。

### -緊急派遣に対応できるネットワークの仕組みづくりが喫緊の課題-

情報通信技術（ICT）の利便性においては全国的な取り組みについては緊急システム（119・110通報）にも連動します。GPSや写メールによるメール119はいよいよ数年後にはネット119システムとして統合化され全国一本化されます。しかし手話通訳や要約筆記派遣事業は、市町村の広域連携が確立していないことから、緊急体制に対応できるネットワークの仕組みづくりが喫緊の課題となっています。

緊急派遣は、閉庁時間帯における手話通訳派遣事業の在り方にもつながり、大きな課題となっております。

聴覚障害者にとっての意思疎通支援の充実化を図るためにも、ICTの利便性が、本来の手話通訳設置派遣事業の代替とならぬよう、警鐘を鳴らしつつ、聴覚障害者情報提供施設が核となり意思疎通支援事業の在り方についてかじ取りをしていかなければならない時代に入ったといえます。

### 施設整備

全館LED化  
で  
明るく・省エネ

平成29年8月夏、千葉聴覚障害者センター館内の照明を、節電効果の高いLED照明に交換しました。明るくなったセンターにぜひお越し下さい。秋には車いす昇降機を設置する予定です。当センターは、ご来館される皆様が利用しやすいようにバリアフリーの施設整備を進めています。



# らいおんぐるーぷ便り

## ～生活介護事業準備開始～

『らいおん神明(仮称)』

らいおんぐるーぷ第5番目の通所施設として生活介護事業所『らいおん神明(仮称)』の年内オープンに向け準備中です。

施設は千葉聴覚障害者センターから徒歩1分！らいおん工房・千葉から歩いて3分！という近さ、通り側の大きな窓から明るい陽射しがたっぷりと注ぐ恵まれた環境です。

生活介護では、食事・排泄など必要に応じた日常生活上の支援や、健康維持のための運動、散歩や季節ごとのイベントなどの創作的活動だけでなく、個々の機能を活かした自主製品製作等、生産活動も行います。とにかくご利用の皆さんが、楽しめる！安心できる！生き生き！ワクワク！できる場を提供できるように準備しています。

ご利用の際は、障害支援区分認定後、サービス等利用計画書の作成等の手続が必要となります。詳しくはお住まいの市区役所で受給者証についてお問い合わせください。

※) 障害支援区分とは、障害福祉サービスを受ける必要性を明らかにするために障害の特性や心身の状態に応じて必要とされ支援の度合いを認定調査と医師の意見書によって厚生労働省令に基づき市町村がサービスの種類を決定します。



2F

- ・らいおん介護事業所 (旧介護係)
- ・らいおん神明事務所

1F

- ・らいおん神明(仮称) <<生活介護事業所>>

※千葉市中央区神明町6-2 小川ビル

『らいおん神明(仮称)』の2階は、「手話のできるヘルパー派遣」でお馴染みの千葉聴覚障害者センター介護係が名称を変更して「らいおん介護事業所」としてオフィスをスタートしています。

「らいおん神明」と「らいおん介護」は、千葉県の聴覚障害者に対する障害福祉サービス・介護福祉サービスのエキスパートとして力を合わせて共に取り組んでいく事業所となります。

難聴者 & 中途失聴者 情報

2017年 千葉県中途失聴者・難聴者の集い

— テーマ —

「元気で 笑顔で 共に学び 友に語ろう」

2017年9月24日(日) 10:00～15:30

千葉市障害者福祉センター 1階  
(千葉市ハーモニープラザ内) 多目的ホール

午前：講演 10:00～11:30

講師 武井正子先生 (順天堂大学名誉教授)

～元気なスーパーオールドに～

「武井先生が健康寿命を語る」



午後：筆談サロンを楽しもう 13:00～15:30

※参加申し込み・参加費 不要

※筆記用具(サインペン)持参、昼食は各自用意

主催：NPO 千葉県中途失聴者・難聴者協会

問合せ：千葉県中難協事務局 FAX 047-432-8039

## あなたの手話力、試してみませんか 5級から1級まで千葉県内で受験できます

## 第12回 全国手話検定試験

全国手話検定は社会福祉法人全国手話研修センター主催で毎年1回、行われています。手話学習6か月位を想定した5級から、手話学習3年位・単語数約3,000程度習得目安の1級まで千葉県内会場で受験できます。

今年度は、10月14日・15日・21日の3日間千葉市を会場に行われます。

第12回全国手話検定の申し込みは8月に締め切られておりますが、今後の目標として手話の学習及びろう文化への理解を掲げてはいかがでしょうか。手話に興味のある方、手話力UPを目標にチャレンジしてみてください。

当センター発行の「友だちをつくる手話 第3版」は、手話5級目安の手話単語を基本に作成されています。はじめて手話を学習する方や手話サークル・学校等の教材として大変好評をいただいております、すでに3版を重ねております。



発行日：2016年3月

発行：

千葉聴覚障害者センター

印刷・製本・販売：

千葉日報社

〈問い合わせ先〉 千葉聴覚障害者センター 〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12  
TEL 043-308-6373 FAX 043-308-6400 ホームページ <http://www.chibadeaf.or.jp/>

## らいおん工房カレンダー 2018

9月中旬販売開始！

『花』をテーマに個性あふれるカレンダー2018制作中です。購入して下さる皆さまに「笑顔」「元気」

「安らぎ」を感じていただきたく、らいおん工房の仲間が心を込めて描いた絵や折り紙・粘土細工の数々がカレンダーになります。是非♪お買い求めください。

お問合せ：らいおん工房(就労継続支援B型)

TEL/FAX

043-224-2844



社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会  
後援会

千葉県聴覚障害者協会を支援してきました2団体「千葉県ろう重複障害者施設をつくる会」と「千葉県聴覚障害者情報提供施設運営事業後援会」が平成29年5月1日本化し「社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会後援会」となりました。県内の全ての聞こえない仲間が安心して過ごせる場を増やし、充実させるための支援をしていきます。

10月22日  
秋穫祭内  
第3回  
手話コーラス  
コンテスト  
開催！！